

植物と人々の博物館メールマガジン

第 101 号 2023 年 7 月 3 日発行



梅雨になり、ユリやフヨウも咲きました。素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

国際雑穀年は日本で見捨てられてきた雑穀ほか、在来作物を再評価する千載一遇の最後の好機です。未来を生きる孫子たちに希望を示すために、編集子にはこの先の時間はありませんので、この企画に関しては多くの皆様のご助力を切にお願いしています。友の会会員になって、一緒に博物館づくり活動をしてくださると嬉しいです。

1. 植物と人々の博物館

○予定 開館・作業予定日：随時未定

資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整して開館します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

1) 再興について話し合いを行っています。

2) 民族植物学ノート第 17 号は寄稿があれば 2024 年 3 月末に発行する予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は序章から第 3 章インド亜大陸の食文化までを改定して公開しました。旅行記録を公開しました。今後は雑穀の起源と伝播の仮説の検証を行うように、第 9 章パキスタン、第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。同時に、50 年の研究成果のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

[westturkistan.pdf \(milletimplic.net\)](http://westturkistan.pdf(milletimplic.net))

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/westturkistan.pdf>

4) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されます。

5) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、
「つぶつぶ」、「月刊みんぱく」ほかをいただきました。ありがとうございました。月刊
「クリンネス」へのエッセイ隔月連載は今年も続けます。去年は花の香でしたので、本
年は花の色を話題にします。季刊「つぶつぶ」への連載、雑穀物語 2～降矢静夫夫妻も
書きました。雑穀物語 3～椎葉秀行夫妻を予定していましたが、椎葉クニ子さんは 6 月
21 日に急逝されました。民族植物の知識体系の優れた伝承者を失ってとても残念です。
感謝とともに、ご冥福を願います。

6) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意
募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってく
ださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研
究会に基金費目を設けました。雑穀街道普及会も含めて、費目指定でご寄付をいただ
けるとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

すでにご寄付を頂き、感謝しています。説明用冊子の印刷（5 刷で総計 3000 部）と
雑穀栽培講習会の農具や肥料の経費に使用させていただいています。今後、計画が進
行するようなら、クラウド・ファンディングや助成・補助も考えたいと思います。

7) 雑穀街道の普及、植物と人々の博物館再興については、谷崎テトラさん（プロデュ
ーサー）、稲本正さん（オークヴィレッジ）が積極的に企画してくださるとのことで、
何度か協議して、縄文リビングラボとして実現の可能性を探ります。

8) 座談会・フォーラム企画案 3

次の座談会やフォーラムを企画しています。ご意見を頂いて内容修正しながら、準
備を進めたいです。

① 西原ふるさと祭

雑穀街道普及会座談会

日時：10 月 8 日（日）

場所：びりゅう館または西原小学校および ZOOM

プログラム：時間未定

12：30～13：00 雑穀街道普及会総会

13：00～14：15 雑穀街道映像（梶間陽一制作）

14：15～15：30 座談会

主催：雑穀街道普及会

共催：NPO さいはら、NPO 自然文化誌研究会、縄文リビングラボ

② 国際雑穀年記念フォーラム

食農でつなぐ心の構造と機能

日時：11月未定（日）

場所：（仮）東京学芸学教室および ZOOM

プログラム：

10：00～10：05 挨拶

10：05～10：50 料理の起源から心の構造と機能を学ぶ（木俣美樹男）

10：50～11：20 （仮題）自然、生業、農林水産業をつなぐ探求学習（長濱和代）

11：20～11：50 （仮題）調理と食材をつなぐ農園（尾藤環）

11：50～13：05 雑穀街道映像（梶間陽一製作）

13：05～14：25 座談会あるいはパネルディスジョン

14：25～14：30 挨拶

主催・共催：未定

2. 自然文化誌研究会

○報告

6月26日（月）、臨時拡大運営委員会、代表理事ほか、14名参加。

植物人々の博物館に今後について話し合いました。

○予定 詳細はホームページをご覧ください。

8月4日（金）～10日（木）、こすげ冒険学校、6泊7日、20名

小菅村のいつものキャンプ場

8月14日～24日、タイ・ベトナム環境学習キャンプ、ウタイタニ国立公園、パンダキャンプ 他

9月30日（土）～10月1日（日）、INCHまつり（ライブ）、30名

小菅村のいつものキャンプ場

12月下旬（23-25 or 26-28）、まふゆのキャンプ、15名

小菅村のいつものキャンプ場

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層 A 型の子孫、縄文人の末裔を自認するものは自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま毎年種子を播いて、郷土食を調理して継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいです。かさねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているので、基層文化を消滅させないように切にご助力をお願いします。雑穀街道地域は縄文時代中期の勝坂土器文化圏に重なります。

簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。家庭菜園や雑穀に関するご質問にはメールくだされば、いつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、50年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費はありません。寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。

○報告

雑穀街道普及会の方向転換：

国際雑穀年は最大の好機で、相当数の方々が動画や資料を見てくださっています。でも、なかなか、雑穀や生物文化多様性、農耕文化基本複合、伝統的知識体系など、基層文化の大切さを、深く理解していただくことは難しいようです。山梨県の地元行政は人手がなく、協力していただけないようです。世の中に対して、植物と人々の博物館および個人としてできることはおおかたなし終えました。世論がどう変わるのか、今しばらく待ちますが、もう先はほとんどありません。このため、幹事や会員のご了承を得て、少し方向転換をして第三段階の活動方法に進みます。

① FAO世界農業遺産の申請団体は雑穀街道普及会とし、準備活動を進めていきます。現況は下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/approval22811.pdf>

② 相模原市役所での市長面会の後、詳細を改めて5月8日に緑区長に説明させていただきました。趣意書冊子は新たな賛同団体を加え、改訂してきましたが、すでに残部はありません。改訂（5刷）は1000部を印刷中です。配布してくださる方には必要部数をお送りします。雑穀街道の道の駅などに置いていただきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/ms23e5.pdf>

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdfなどは下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。自給農耕ゼミは引き続き開催しています。雑穀栽培会（西原）も連携します。

内容についての連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは下記サイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

○ 予定

1) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

国際雑穀年を契機として、在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善しましょう。そのために、遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請し、山村において生物文化多様性を現地保全します。プランタでも栽培できるように栽培の手引きや雑穀種子を差し上げます。栽培から、加工・調理まで実習し、また、収穫物で美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう。

第 14 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：2023 年 7 月 23 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩

実習：除草、中耕、追肥。講義：雑穀、その料理の起源と伝播。発泡酒の仕込み見学。

話題提供者：宮本透、木俣美樹男（雑穀街道普及会）

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

協力： ジャズ・ブルワリー

集合場所：上野原駅バス停 8：30 または現地近くの石楯尾神社前（周辺地図）。藤野駅の北側にある神社です。同名の神社が南にもあるので、間違えないでください。

<https://map.yahoo.co.jp/?lat=35.65645&lon=139.11944&zoom=19&maptype=basic>

駐車場はあります。更衣が必要なら、近くの公民館を予約してあります。

暑いと予測されますので、お弁当、飲み物、帽子、タオルなど持参ください。

協催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

協力： ジャズ・ブルワリー

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

参加費は不要ですが、活動への任意の寄付は歓迎します。

交通案内： JR 中央線／上野原駅南口からバスがある。

電車 <行き>上野原駅 甲府方面から 8:00 着。東京方面から 8:26 着
手洗いは南口下にもあります。

<帰り>上野原駅 甲府方面へ 15:59 発。東京方面へ 16:01 発

バス <行き>上野原駅 8:35 発、石楯尾神社前 8:55 着。

<帰り>石楯尾神社前 15:31 発、上野原駅 15:53 着。

更衣など施設 公民館

バス利用の方は、木俣が上野原駅南口エレベーター下でお待ちします。

雑穀街道普及会は関東山地南部地域農山村の小規模家族農耕によって伝承保全されてきた雑穀他の生物文化多様性を継承するための普及啓発活動を行い、あわせて FAO 世界農業遺産に登録申請の準備をすることを目的としている。2023 年は国際雑穀年です。これまでに行った、このゼミに関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開されています。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

2023 年の自給農耕ゼミおよび NPO さいはら雑穀栽培会開催予定は添付します。

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

[環境学習市民連合大学 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

(33) [雑穀街道を FAO 世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ 連続講座第 21 回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

(81) [国際雑穀記念オンラインイベント「つぶつぶ雑穀パワーフェス」第 2 回 - YouTube](#)

◎ 報告

1) ローカリゼーション・デイ日本分科会 雑穀＝食のローカリゼーション

日時：6月11日14:45～16:00 60名ほどの参加

URL：<https://youtu.be/Jwz64EdrT0I>

主催：ワノサト・メディア・プロジェクト

協力：雑穀街道普及会、NPO 法人自然文化誌研究会、植物と人々の博物館

トランジションタウン小金井、NPO 法人トランジション・ジャパン（案）

2) 第 13 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：6月25日（日）6名参加。場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩

プログラム：実習：中耕、除草、追肥。

*これまでに行った、このゼミに関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開されています。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

○2023年開催年間計画案

1) 植物と人々の博物館 自給農耕ゼミ（佐野川）

山間地畑作農耕について、雑穀栽培の基礎技能と佐野川茶の管理作業を主に学ぶ。また、雑穀の民族植物学、雑穀とその料理の起源と伝播、インドの日本の雑穀料理と発泡酒醸造を学ぶ。有機肥料のみを使用する。

講師：宮本透、井上典昭、木俣美樹男（雑穀街道普及会）、富澤太郎、中川智（雑穀栽培会）ほか。

*西原での活動も協働実習として案内する。

主催：NPO自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、ワノサト・プロジェクトほか。

参加費不要、任意の寄付は歓迎。

申込先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男。

詳細は <http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

④ 8月6日（日）：第15回

実習：防雀網張り、講義：日本雑穀のむら

⑤ 9月3日（日）：第16回

実習：キビの収穫、収穫祝い会食（雑穀料理づくり）。

⑥ 9月17日（日）：第17回

場所：相模原市緑区相模湖、ヤギ園。実習：キビ脱穀、発泡酒の仕込み見学。

⑦ 10月1日（日）：第18回

実習：雑穀見本園収穫、防雀網片付け。

⑧ 11月19日（日）：第19回 実習：コムギ、オオムギの播種

⑨ 12月10日（日）：第20回 実習：麦踏み。懇談会：

⑩ 1月日：第21回 実習：麦踏、味噌の仕込み

⑪ 2月日：第22回 実習：麦踏、醤油の仕込み

⑫ 3月日：第23回 懇談会

2) 上野原市西原でも NPO さいはらの雑穀栽培会があります。あわせてご案内します。ご参加ください。

お山の雑穀応援団 参加者募集中

「消えかかると地域の雑穀（キビやアワ）を、みんなで育て、食べ、学び、次世代につながる。」より多くの方と共に受け継いでいく形を作るため、2018年から栽培に取り組んできました。コロナ渦中、活動をお休みしていましたが、形を少し変えて、

再スタートします。「雑穀を食べるのが好き」、「雑穀を作ってみたい」そんな皆様とともに雑穀を作り、地域のあちらこちらでキビやアワの穂であふれる畑が広がるのを夢見ています。ぜひご参加ください。

【年会費】3,000円（NPO さいはらの会員）

【今年の年間スケジュール】月に一度の共同作業で、雑穀を栽培します

7月9日（日）草取り、土寄せ

8月6日（日）鳥よけネット設置

9月10日（日）収穫

10月1日（日）脱穀

11月5日（日）収穫祭、雑穀を食べる

* 来られる回だけの参加、途中からの参加、通して参加できなくても大丈夫です。

* 平日でないと参加できないという声もありますので、臨時で平日作業日も設ける予定です。ご興味ある方はお問い合わせください。

* 収穫した雑穀は、11月のイベントで参加者で食べます。たくさん採れた場合はびりゅう館の厨房で使います。

【申込み・問い合わせ】NPO 法人さいはら 担当：富澤太郎

メール：taro.tomisawa@gmail.com

電話：0554-68-2100（びりゅう館）

3) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素暮発泡酒）を復刻します。雑穀街道美味の新商品になることを期待します。前回のラベルを基にした本間由佳さんのデザインは下記です。国際雑穀年・東京学芸大学創基150周年記念として醸造します。同窓会紙にも案内していただきました。

材料・醸造関係

①宮本茶園において、自給農耕ゼミ（佐野川）で栽培したキビ10kg、およびホップを使用します。ソビボ・ピーボはイギリスのギネスビールのような味わいになります。

②藤野のJazz Brewing Fujino（山口解さん）で醸造します。



2018年、神奈川県相模原市にある陣馬山の麓にオープンした超小規模醸造所。日本の里山百選にも選ばれた旧藤野町佐野川の名水を使用し、非加熱、無濾過。使用している酵母は仕込み毎に使い切りの純粋培養された活性度の高い酵母でこだわりの醸造を行っています。

3) 山口さんの通常販売価格は6本、送料込み5,500円でネット販売されています(遠隔地は送料が異なります)。これに加えて標記目的のために、よろしければ、任意のご寄付を加えていただければ幸いです。

予約方法

企画へのご質問や予約申込先は雑穀街道普及会、事務幹事 木俣に下記メールでお願いします。 kibi20kijin@yahoo.co.jp

予約が限定50口になりましたら、改めてご連絡し、代金などをお振込みいただきます。**現在、仮予約36口**です。第1回目は醸造を始め、1月ほどでできます。冷蔵で1年間保存できますが、でき立てのほうがおいしいので、まず事前に予約を頂きます。1ロット330ml瓶300本、製造価格約20万円、これらにラベルデザイン・印刷代、送料などの経費が加わります。第2回目は今栽培中のキビを醸造に使用するので、秋になります。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ(佐野川)、雑穀街道普及会

4) 検討中：縄文リビングラボは縄文生活文化に特化したリビングラボの構想です。

※リビングラボとは?・・・<https://ideasforgood.jp/glossary/living-lab/>

「農山村地域の自然共生的な生活文化の基層(縄文文化の系譜、畑作伝統の温故)」に基づく、生活文化の再創造を目指します。

縄文時代に最も人口が多かった山梨県から神奈川県に至る流域の中心地＝山梨県上野原市を最初の拠点として、日本全国の縄文生活文化に関係する自治体へと広げていけたらと考えています。

活動の拠点を、山梨県上野原市西原地区(旧西原村)＝旧西原小学校(廃校)に置きます。現在、閉鎖中の「植物と人々の博物館」(小菅村)の上野原への移転・研究再開を中心に以下のプログラムを進めて行きます。

活動：

- 1) 植物と人々のつながりによる生活文化研究(縄文生活文化)
- 2) 雑穀食 長寿村の暮らしに基づくウエルビーイング
- 3) 環境学習によるエデュケーションプログラム
- 4) 研究・啓発活動(メディアづくり)
- 5) その他、縄文生活文化に基づく、暮らし(なりわい)作り

○縄文リビングラボは以下のステークホルダーを結びます。

- 1) 行政：上野原市、相模原市、山梨県
- 2) 研究：NPO法人自然文化誌研究会、植物と人々の博物館、
- 3) 地域：雑穀街道普及会、NPO西原、西原地区の農家、

- 4) 環境：NPO 法人トランジション・ジャパン、トランジションタウン小金井
アースデイ ジャパン、アースデイ甲府、ローカリゼーション デイ日本
- 5) メディア：ワノサト・メディア・プロジェクト、エヴォリューション

●参考資料・動画

ローカリゼーションデイ日本・分科会6（71' 25"）

<https://youtu.be/Jwz64EdrT0I>

発起人プロフィール

◎木俣美樹男：

◎谷崎テトラ：京都造形芸術大学客員教授/放送作家/音楽プロデューサー/ワールドシフト
トネット

ワークジャパン代表理事/アースデイ東京ファウンダー/ピースデー財団理事

◎梶間陽一：映像作家、ワノサト・メディア・プロジェクト

NPO 法人トランジション・ジャパン副代表理事、トランジションタウン小金井代表

5) FAO 国際雑穀年のウェブ・セミナー

FAO ローマ本部主催のウェビナーに招待されました。7月11日に、“A Historical Sketch of Millets in Japan”で準備しています。下記は6月23日現在のプログラムです。参加の申し込みは下記です。

[Second Webinar of the IYM Global Webinar Series "Historical aspects of millets" \(fao.org\)](https://www.fao.org/webinars/2023-07-11-historical-aspects-of-millets)

11 July 2023 12:00 – 13:00 CEST

Language: English, Chinese

“Historical aspects of millets”

Draft Agenda

Time	Agenda item and presenter
12:00–12:05	Opening remarks by Mr Jingyuan Xia , Director of FAO Plant Production and Protection Division (NSP), FAO
12:05-12:15	<i>Archaeological and anthropological aspects in millets tradition</i> by Ms Nuria Sanz , Regional Director of UNESCO Cairo Office
12:15 –12:25	<i>History of millets in Japan</i> by Mr Mikio Kimata , Ethnobotany and Principle for Learning Environment Emeritus Professor of Tokyo Gakugei University, Japan
12:25 –12:35	<i>Connecting tradition to markets</i> by Mr Haiqing Liu , Young Entrepreneur of Aohan Banner, an Agricultural Cultural Heritage Site, China
12:35 –12:55	Q&A session
12:55 –13:00	Closing remarks by Mr Jingyuan Xia , NSP Director, FAO

The webinar will be moderated by **Ms Makiko Taguchi**, Agricultural Officer, NSP, FAO

6) 雑穀研究会シンポジウム案内

1. 日 時 2023年8月24日(木)
2. 場 所 北海道上川郡剣淵町仲町16-1 株式会社けんぶち VIVA マルシェ
3. 日 程 8月23日(水) 各自で旭川市宿泊
8月24日(木) 8:30 旭川市発(レンタカー乗り合い)
10:00~12:00 総会およびシンポジウム 於:農業総合振興センター
12:00~13:00 昼食
13:00~15:30 キノア圃場、加工施設見学 懇親会(有志) 宿泊(各自)
8月25日(金) 各自自由解散
4. 費 用 参加費5,000円(宿泊、空港バスは各自)
5. 宿泊先 JR旭川駅から近くのホテルに宿泊して下さい。
旭川プレミアムCABINホテル、スーパーホテル、スマイルホテル、ホテルウイングインターナショナル、JRインホテル、ルートインホテルなど
6. 申込先 参加は完全予約制とします。
雑穀研究会総会、シンポジウムの申込先(お問い合わせも)
庶務幹事(担当:加藤太) zakkoku.shomu@gmail.com
氏名、所属、メールアドレス、電話番号、研究発表の有無を記載して送信して下さい。
申込み締切:2023年7月1日正午。
なお、受け入れ先の都合で日程が前後する可能性があります。確定次第HP、MLで連絡します。

7) International Millets Conference, 2023

Theme: "Promoting Millets through Interdisciplinary Research: New Varieties and New Markets for a better Tomorrow!"

詳細はメルマガ100をご参照ください。

Dates: Tuesday, Aug. 1, - Thursday, Aug. 3

[Gering Civic Center, Gering, Nebraska, USA](#)

Conference URL: <https://preec.unl.edu/international-millets-conference-2023>
[Conference Flyer](#)

Questions: contact Dr. Dipak Santra (+1-308-765-2324; dsantra2@unl.edu)

~~~~~

**植物と人々の博物館** (山梨県小菅村): 館長: 木下善晴、顧問研究員; 安孫子昭二

研究員: 木俣美樹男(東京、専任、担当運営委員)、西村俊(石川、担当理事)、井村礼恵(東

京、担当運営委員)、川上香(長野)、渡辺隆一(長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley(千葉)、伊能まゆ(ヴェトナム)、大澤由実(神奈川)ほか

公式HP:植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行:木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事:宮本透

民族植物学関係HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村/ミューゼス研究会/トランジション小菅**(山梨県小菅村):

代表 亀井雄次(山梨小菅村)

**自然文化誌研究会**:代表 中込卓男(東京)、副代表 中込貴芳(東京)、小川泰彦(埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長:黒澤友彦(山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

**環境学習市民連合大学** <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当:木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真



除草・中耕



梅雨の合間の富士山と丹沢山地



エディブルウェイ：今年は雑穀類を播きました。



東京学芸大学の水田、隣接する辻調理師学校・東京校

おわりに {ひとりごと／編集子私言}

自然文化誌研究会の50周年を2025年に迎えるために、植物と人々の博物館を再興したいです。植物と人々の博物館のホームページもGoogle map検索も、数万から10万以上の検索があります。編集子のサイトも2万以上の検索です。小難しいユーチューブ動画も3000回以上は見ていただけています。

希望が現になるように、今しばらく頑張ります。